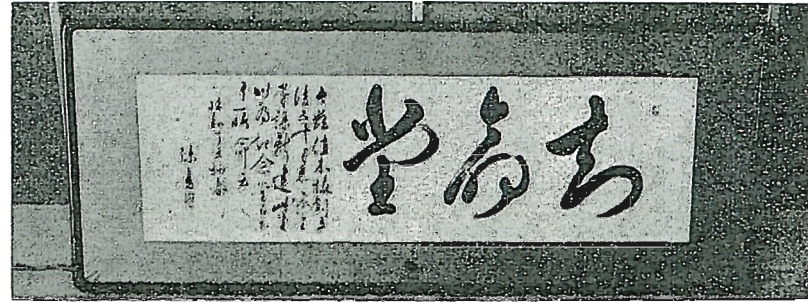


最近十年
の人員
調査



十 時 校 長 筆 蹟

- 一、退寮希望者過多ナル場合ハ特種ノ事情アル者ヲ先トシ他ハ總テ抽籤ニヨリテ之ヲ定メ追テ揭示ス
- 一、退寮許可セラレタルモノハ五月下旬迄ノ間ニ於テ各自適當ナル宿所ヲ求メ許可ヲ得タル上隨時引移ルベシ
- 一、萬一退寮希望者少數ナル場合ハ自然第二寮第三寮東半部ニモ收容セラル、コトアルベキハ従前ノ通リト承知アルベシ 以上

参考 最近十年間の人員調査

昭和四年度		昭和五年度		昭和六年度		昭和七年度		昭和八年度		昭和九年度		昭和十年度		昭和十一年度		昭和十二年度	
入寮者	二三四	二三四	二三四	二二〇	二二〇	二一六	二一四	一九七	一八六	一九四	一九四	一九四	一九四	一九四	一九四	一九四	一九四
退寮者	二六	二六	二六	二九	二九	二二	二二	二四	二九	二九	二九	二九	二九	二九	二九	二九	二九
學年末在寮者	二〇八	二〇八	二〇八	一九一	一九一	一九四	一九四	一九〇	一六八	一七一	一七一	一七一	一七一	一七一	一七一	一七一	一七一

第二章 龍南會の今昔

第一節 龍南會創立と龍南會雜誌の創刊

明治二十年八月に開かれた相談會の席上に於て、野村校長は、民間に於て、年齢十五乃至二十の有志者を以て、私立體育會を組織したき旨を漏したが、翌二十一年には、第五高等中學校體育會なるものが成立した。今その規則を列挙すれば、次の七箇條である。

第五高等
中學校
體育會
の成立
則體育會規

第五高等中學校體育會規則

- 第一條 本會ノ目的ハ快活ノ運動ヲナシ身神ノ强健活潑ヲ進ムルニアリ
- 第二條 會員タラント欲スルモノハ其姓名科級組ヲ本會委員長ニ報シテ許可ヲ得ベシ
- 第三條 本會ノ職員ヲ定ムルコト左ノ如シ
委員長 一名 委員 五名

但シ委員長ハ本會ノ事務ヲ綜理シ委員ハ委員長ノ指揮ニ從ヒ本會ノ事務ヲ分掌擔任スルモノトス

第四條 委員長委員ハ總會員ノ投票ヲ以テ撰舉シ滿一ケ年ヲ經テ改撰スルモノトス

第五條 本會ニ於テ演習スル諸科目左ノ如シ

兎狩、遠足、競走、綱引、フットボール、ベースボール、クロッケー、投擲等。

第六條 本會ヲ分テ大會小會トシ大會ハ春秋二期トシ小會ハ毎月第一第三ノ日曜日午後一時ヨリ五時迄トス
但シ科ニ應ジテ時間ヲ増減スルコトアルベシ且ツ雨天ノ節ハ次日曜日ニ順延ス

第七條 退會セント欲スルモノハ本會委員長ニ届出ベシ

之を今日の各部に充てて考へて見れば、陸上競技・野球・蹴球等であり、明治節に行はれてゐる黒石原遠足や、陸上運動會の際に於ける文理科對抗細引や、總務部主催の兎狩なども、その中に包含されてゐるのである。而して如上の體育運動に對して、精神的方面に於ても、古城時代已に、補充科生の間に於ける金蘭會、同覽雜誌、それに刺激されて起つた研志會、雜誌等があり、更に又、龍南、義誌等の私的回覽雜誌もあつたが、有志間に於ける、鑿劍會があり、弓術部があり、土曜會（後の演說部）があると云ふ風に、各種の方面に漸次充實されつゝ、あつた際、二十四年十月嘉納校長の來任は、柔道部の創設も必然起るべきことであつたので、機運熟して一大組織が成立つた次第である。

龍南會雜誌第壹號（明治廿四年十一月廿六日發行）藤本充安氏の祝詞を案するに、

本年四月ノ頃ナリキ本校生徒中ニ鑿劍會ヲ創立センコトヲ企テタル人アリテ其用談ヲ帶ビ首席ノ教授（秋月教授ナリ筆者註）ニ某館（校内教師館ナリ同上）ニ面シ説クニ該會創立ノ事ヲ以テセシニ教授之レヲ是トシ許スニ其會費ノ一部ヲ出サンコトヲ以テシ話頭一轉遂ニ第一高等中學ニ及ビ其授業方ヨリ生徒ノ有様ニ渡リ又轉ジテ彼ノ校ノ裏面ノ組織ニ移リ校友會ノ談トナリシガ其生徒皆大ニ之ヲ賛成シ是非此組織ヲ採用セント決心シタリト云フ是レゾ恐クハ今回大ニ生長セル我校龍南會ノ發端ナルカ（秋月教授ハ以前第一高等中學校教諭ナリ同

古城時代
金蘭會同
覽雜誌
研志會
鑿劍會
龍南會
弓術部
土曜會
嘉納校長
校友會
校友會
立の經緯

創立委員
選舉會

上）六月ノ第一月曜日ト覺ユ本校協議會ノ開會アリシガ例ノ龍南會一件議題トナリ遂ニ滿場一致ノ賛成ニテ該會様ノモノヲ創立スルコトニ決シ白石木崎佐藤梅野藤本ノ五氏當撰シ該會規則草案ヲ作リシガ遂ニ避暑ノ爲ニ隔テラレ其儘トナレリ越テ九月トナリ十月トナリシガ十月ノ協議會ニモ又該會創立ヲ急トスルノ議出デ固ヨリ之ヲ創立スルニ決シ此度ハ委員ノ職員及ビ生徒ヨリ出スコトトナリ職員ノ方ヨリハ戸澤永井ノ兩氏出デ生徒ノ方ヨリハ先ノ委員引續キテ其撰ニ當レリ茲ニ大ニ記憶ス可キハ十月廿四日ナリ何トナレバ此日龍南會創立ノ正式ノ基礎トモ稱スベキ委員撰舉會開カレタル日ナレバナリ而シテ其結果ハ左ノ如シ（其姓名ヲ略ス）指ヲ屈スレバ其發端ヨリ大凡ソ百七十餘日ヲ經テ初メテ茲ニ正式ニ生レ出タリ（中略）

カラザレバナリ（下略）

更に、「龍南會記事」に依れば、

涓滴巖を穿つ、漸を以てすればなり、積羽舟を沈む、和を以てすればなり、之を爲すに漸を以てし、之を行ふに和を以てす、事而して就る、曩に我校生徒の團體を設け、有必のものはに見るあり、集めて大成せんことを謀る、議今年四月に起り、九月に至りて熟す、則ち職員中より、七名の創立委員を設け、規則を編制し、方略を部署し、十月廿四日、役員を定め、今月三日、如めて開會式を行ふに至れり、嗚呼本會の起る、既に素あり、何ぞ彼の尢然たる一團の集會と云はん乎哉、今より漸く以て進み、和を以て行ふ、本會の前途、亦た多望なる哉、今役員及び、各部の情況一斑を録す、

開會式舉行

役員及び各部情況

○會長 嘉納治五郎

○委員長 藤本充安

○雜誌部委員 木崎虎太 加藤本四郎 白石秀夫 古森幹枝 佐藤傳藏 中山文次郎

安住時太郎 江口俊博

○演說部委員 雜誌部委員ヨリ月番ヲ以テ事務ヲ執ル

○擊劍部委員 藤本充安 林 市藏

○柔道部委員 野口彌三 喜入秀三

○弓術部委員 坂田益次郎 江口鎮白

○戶外遊戯部委員 平松末吉 梅野 實

開會式概況 本會開會式に就いては、左の如く記してゐる。

本會開會式も亦同日を以て執行されたり、前項勅語配布畢るや、嘉納會長は、演壇に上り、本日をも以て龍南會の開會式を行ふ旨を告げ、一場の演說あり、次で藤本充安・松崎基礎兩氏の演說、隈本繁吉氏の祝文朗讀あり餘興として、生徒控所に於て、講談師池田某をして義士銘々傳を演ぜしめ、席上茶菓を喫し、全く散會したるは、午後三時頃なりき、

會則及び役員撰舉規則等に關しては、同年十二月二十日發行の第二號に、「龍南會記事」として掲げてゐる。

龍南會會則

龍南會會則

一 本會ハ第五高等中學校職員生徒及び本校ニ緣故アルモノヲ以テ組織シ相共ニ智徳ヲ磨キ身體ヲ練リ交誼ノ親密ヲ計ルヲ以テ目的トス

一 本會ヲ龍南會ト稱ス

一 本會々員ヲ分ツテ名譽會員、通常會員及び客員トシ本校職員ヲ以テ名譽會員トシ本校生徒ヲ以テ通常會員トシ本校ニ緣故アルモノヲ以テ客員トス

一 本會ニ左ノ諸部ヲ置ク

演舌部、雜誌部、擊劍部、柔道部、戶外遊戯部

一 本會々員ハ隨意ニ各部々員タルコトヲ得

但シ雜誌部戶外遊戯部ヲ除クノ外ハ各部ニ届出ツ可シ

一 本會ニ左ノ役員ヲ置キ役員撰舉規則ニ由テ之ヲ撰定シ其任期ヲ一ケ年トス

一 會長 一名 一 副會長 一名

一 部長 六名 各部ニ一名宛

一 委員 十六名 雜誌ニ八名其他ハ各部ニ二名

但シ演說部委員ハ雜誌部委員ヨリ之ヲ兼ヌ

一 會計係

一 本會ノ事務ハ會長之ヲ監督シ部長及び委員、事務取扱規則ニヨリ之ヲ取扱フ

- 一 本會ハ會員ノ寄附金及ビ定時出金ヲ以テ一切ノ費用ニ充ツ
- 一 本會ハ修學旅行ノ時會員ノ補助スルコトアル可シ
- 一 本會ハ毎年一回總會ヲ開ク
- 一 此規則ハ役員五人以上ノ動議ニヨリ役員總體ノ會議ヲ開キ其三分ノ二以上ノ同意ヲ得ルニ非レバ之ヲ改正スルコトヲ得ズ

役員撰舉規則

- 一 役員ノ改撰ハ毎年五月ニ是レヲ行フモノトス
 - 一 但シ委員中臨時缺員アルトキハ其都度委員ノ撰舉ニヨリ是ヲ補フモノトス
 - 一 會長及副會長ハ全會員ノ撰舉ニ由リ之ヲ定ム
 - 一 但シ當分會長ハ校長ヲ以テ之ニ充テ副會長ハ首坐教授ヲ以テ之ニ充ツ
 - 一 各部々長ハ其部員ノ撰舉ニ由リ之ヲ定ム
 - 一 但シ當分委員會ニ於テ職員中ヨリ之ヲ撰舉ス
 - 一 委員ハ通常會員ノ撰舉ニ由リ之ヲ定ムルモノトス其法ハ先ヅ各組生徒ヨリ一二名宛ノ撰舉掛ヲ互撰ス
 - 一 會計係ハ本校會計官ヲ以テ之ニ充ツ
- 事務取扱規則
- 一 本會全體ニ關スル事件ハ會長ヲ以テ議長トシ部員及ビ委員ノ議決ニ由リ之ヲ定ム

- 一 役員會ノ議決及ビ其他後來ノ先例トナルベキ事項ハ之ヲ記錄ニ存スルモノトス
- 一 本會各部ニ關スル細則ハ部長及ビ該部委員ノ協議ニヨリ之ヲ定ム
- 一 但シ會長ノ認可ヲ得ルヲ要ス

- 一 各部ニ關スル事務ハ各部委員會ニ於テ定メタル細則ニ據リ該部委員之ヲ取扱フ

但シ重要ノ事ハ部長ノ認可ヲ得尋常ノ事ハ單ニ之ヲ通知スルモノトシ部長ハ之ヲ會長ニ報告スルモノトス

會計規則

- 一 通常會員ハ會費トシテ毎月金拾錢ヲ納ム可シ
- 一 但シ授業料納日ニ之ヲ納ムルモノトス
- 一 名譽會員ハ毎月其月俸ノ百分ノ一ヲ寄附スルモノトス
- 一 客員ハ毎月金八錢ヲ納ムルモノトス
- 一 經費ノ支出ハ役員全體ノ議決ニヨリ之ヲ定ム
- 一 全會ノ會計ハ會長ノ監督ヲ受ケ會計係之ヲ取扱フ
- 一 各部ノ會計ハ部長ノ監督ヲ受ケ各部委員之ヲ取扱フ
- 一 會費ハ第九銀行ノ當座預ケトナスベシ故ニ仕拂ヲ請求スルトキハ三日以前ニ會計係ニ報告ス可シ
- 一 右會費ノ支出ヲ請求スルトキハ其請求書ニ部長ノ證印アルヲ要ス

規則既に成り役員ノ選舉を行ヘリ今其當選者を左に掲ぐ尤も委員の數及び人名は現に本誌第一號に掲載せるを

以て之を略す。

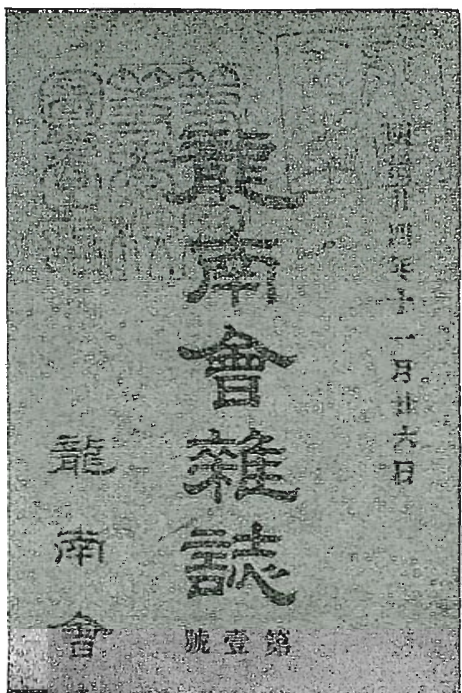
會長	嘉納治五郎	副會長	櫻井房記
雜誌部長	大瀬甚太郎	演說部長	戸澤鼎
筆劍部長	秋月胤永	柔道部長	大倉増次郎
弓術部長	園哲雄	戶外遊戯部長	秋山鍊太郎

發刺たる青年の意氣と和親とは、遂に天長節の佳節をトして、龍南會を出現せしめ、創立以來の懸案は解決せられ、宿望は達成せられた。組織委員は勿論、全會員の欣懷や察すべく、責任や益々重くなつた。殊に、會長以下各部長に至るまで、全幅の理會と、滿腔の熱意とを以て、支持後援せらるゝ龍南會の前途は、實に洋々たるものがあつたのである。而して創立の校友會名に就いては、種々の意見も出たが、その結果、龍陽を選び、秋月教授に蒙を啓かれて、遂に龍南と定められたことは、龍南會雜誌中にも、屢々散見してゐる通りである。

而して發會新興の餘力は、逸早く同月二十六日を以て、龍南會雜誌を創刊するに至つた。

本誌發行の主旨

列國の競争は如何に激烈なるも東洋を蔽ふの慘雲は如何に暗澹たるも吾等講學の案頭には唯黃紅紫緑を染め出だせる列國の地圖あるのみ人類過去の歴史あるのみ數理天文格物致知の圖書あるのみ耳に政海の怒濤を聞くも心、黨派の鄙情に浸まず日々講筵に在りて政法を講じ哲理を究め鉤玄窮理觀察實驗是れ日も足らず又安んぞ意を俗界に馳せ口、俗事を談するに遑あらん然れども徒に學を講じ識を啓く是れ豈に吾輩學生の目的ならんや



今や洊々たる天下の志士と稱するもの多くは宇内の大勢にだも通ぜず況んや玄妙なる學理おや徒に自家沸騰的の腦漿に指嗾せられ一時の妄想を以て輕々一國の大事を論斷し鵜目鷹眼、乘すべきの機會を陰密の間に求め甲罵乙駁紛々擾々各自の方寸を用ひて事理の表準とし堅白同異、正邪轉倒、學理の據るべきなく眞理の探ぐるべきを知らず此の如くにして止まずんば國家の前途は遂に險謀家の玩弄物たるに終らんとす而して天下幾萬の青年書生亦た多くは眼前の利害に齷齪し絶へて遠大の計を立てず徒に耳目の經驗に依頼し漫に鸚鵡の口吻を擬して器械的に大言壯語を反覆す是れ亦第二の險謀家とならずんば則斗筭の輩たらんのみ狂瀾を將さに倒れんとするに回へすは抑も亦彼輩の能くする所に非ざるなり是に於てか國家の長計將た誰が手に依りて成らんとするか

●人類の開化史上に文化を競ひ進んで東洋革新の基を開かんとするには學識を要し經驗を要し機智敏腕を要す吾輩は敢て非常絶倫の大人物、大學者、大發明家、大工業家を以て自ら擬するに非らずと雖時勢は實に吾輩を驅

りて國家の前途に向つて少しく期する所ありしを已に期する所あり是を以て俗事暫く耳目の外に拒絶され人類の競争、東洋の安危亦唯講學の一材料として吾輩の腦裡を刺衝し來るのみ無は有を生ぜず播かざれば稔らず前途志あるもの潜心、學を講ず亦た實に止むを得ざるものなり

夫れ然り國家前途の情勢は吾輩を驅りて姑らく學理の蘊奥を講究せしめ學理の講究は吾輩を驅りて遂に文壇に筆を取らしむるに至れり知るべし時勢は吾輩をして學理を講究せしめ境遇は遂に吾輩をして雜誌を發行せしむることを盡し之を以て敢て英華を大方に銜はんとするにあらず唯前途任を擔へる同窓學生の切磋砥礪の機關に供せんと要するのみ

此の如き意氣と抱負とを以て創刊せられた雜誌は、委員の努力と教官の支援の下に、毎號豊富なる内容を以て、龍南人に歡迎せられたのである。

第二節 龍南會の傳承と雜誌の「龍南」改題

龍南會の傳承に就いては、その形式と内容との二方面を説かなければならぬ。而してその形式的方面に於ては、規則の改正追加と會員の増減とが考へらるべく、その内容的方面に於ては、思想の動向とそれに伴ふ龍南會雜誌の内容とが考へらるべきであらう。然るに思想の動向に關しては、前にも多少觸れて置いたことでもあり、茲には主として形式的方面のみを取扱つて見たいと思ふ。

會則の追

明治二十四年十一月三日の佳辰を以て創立された龍南會會則なるものは、翌二十五年には、

- 一、入會セント欲スルモノハ其原籍及現住所ヲ詳記シ其旨會長ニ申入ルベシ
- 一、不都合ノ所爲アリト認ムルモノハ役員ノ決議ヲ以テ之ヲ除名スルコトアルベシ

一、已ムヲ得ザル事故ニ依リ退會セント欲スルモノハ其理由ヲ明記シ其旨會長ニ届出ツベシ

勝 海 舟 筆 蹟
の三箇條を追加してゐる。入退會に關する規則もさることながら、除名云々の條項に至りては、現在の規則にもそのまゝ存してはゐるが、當時に遡つて考へて見れば、會員相互の緊張と磨勵とが想像せられる。今雜誌第十一號（二十五年十一月三日發行）の雜報に、「二額面の由來と瑞邦館」と題する記事がある。

二額面の由來と瑞邦館

過般俱樂部には勝伯の揮毫せられたる「入神致用」の額面と白虎隊戰死の圖面を掲げるたりしが今般更に有栖川一品親王殿下の御潤筆し給ふたる「瑞邦」の額面を掲げたり、校長二額面の由來を略示して曰く予は龍南會員の希望を納れ此二額面を齎らすに當り豫め揮毫を請ふべき人物を擇びたり想ふに有栖川一品親王殿下は 天皇陛下を除くの外貴顯中最景仰尊崇する所なるにより

二額の由來と瑞邦館

入神致用

瑞邦

入神致用

瑞邦